

「人生を創る言葉と行動を大切に」



(経歴)

ひろしまけんひろしましゅしん さがいでしざいじやう
広島県広島市出身。坂出市在住。

2020年3月、日本代表選手最終選考会 ヴァー1位、カヤック2位。

2020年9月、日本パラカヌー選手権大会 ヴァー1位、カヤック1位。

競技活動の傍ら、香川県パラカヌー協会会長を務め、香川県内の教育機関や福祉施設、スポーツ施設での講演会やカヌー体験教室を通じて、スプリントカヌーの普及活動を行なっている。

2020年度パラカヌー日本代表
株式会社コロプラ 今井 航一 (いまい こういち)

みなさん、こんにちは！今回は、私のこれまでのスポーツ歴、障害者となった理由、パラスポーツを始めることになった経緯、今後の目標などについてお話しさせて頂きたいと思います。

スポーツと私

子供の頃から現在まで、ずっとスポーツに親しんできたというわけではない私ですが、幼少期から中学卒業まで、そして社会人のときにトータルで15年間、唯一本格的に身を入れてやったのが剣道です。子供の頃、剣道の強い地域に住んでいて、練習はかなりハードなものでした。今の基礎体力は間違いなく、小、中学生時代に培われたものだと感じています。

中学3年生のとき、所属する剣道部は団体戦で全国3位になったのですが、私自身は2年生の後半から首のケガなどに悩み、3年生でもレギュラー5人の枠に戻ることができず、その全国大会には2人いる補欠の1人として出場することとなりました。小学生の頃から、その舞台上で活躍することを目指して稽古を積んできた私にとって、それは人生で初めて経験する痛恨の出来事でした。

それから8年後、社会人になって初めての赴任地の上司が剣道をしている方だったのですが、赴任して間もなく道場に連れて行かれ、半ば強制的に再び剣道を始めることになりました。このときは、趣味のレベルではありましたが、平日の仕事終わりと週末に、週5日、大学生、現職の警察官や警視庁OBの方たちと、かなりガッツリ稽古していました。この社会人時代に4年余り剣道の稽古をしたおかげで、三段まで取得することができました。振り返ってみると、とても貴重な時間を過ごさせて頂いたなと思います。

そんなスポーツ歴の私ですが、まさか40歳半ばを過ぎて今のようなスポーツ中心の生活をしていようとは、障害者になる以前は、想像すらしていなかったことは言うまでもありません。

身体障害をもつこととなった理由

私は、左足の太もも半分のところを足を切断しています。2013年、左足に原因不明の悪性肉腫（筋肉にできるがん）を発症したことが原因です。がんの告知を受けたとき、がんの浸潤（がんがまわりに広がっていくこと）がかなり進んでいました。しかも、悪性肉腫の中でも特殊なタイプのがん細胞で、10年、15年経って、急に再発というケースもみられるとのことで、主治医からは一刻も早く治療に入ることを強く薦められました。告知を受けてからは、(当時、食品メーカーの営業職に就いていました)抱えていた仕事を片付けるため、そして、今後の受療のことを考えるにあたり、セカンドオピニオンを聞くための10日間を過ごした後、足を切断し、化学療法（抗がん剤治療）を受けることを決め、入院生活に入りました。

告知を受けたときは、一瞬血の気が引くような感じもあり、瞬間的にいろんなことが頭を駆け巡りました。しかし、その一方で、これは、いま思い返しても不思議なのですが、主治医の話を聞きながら「もうこれで、解放された」という感覚も持っていました。これから治療に入るという状況なので、全然解放されてはいないのですが、話を聞き終えて診察室を出るときには、「死」という言葉よりも、「さあ、新しい人生を生き直そう!」という言葉のイメージの方が強かったのを覚えています。とはいえ、化学療法は思った以上に過酷でした。それでも、なんとか長い入院生活を終えることができました。そのような経緯で、左足を失い、身体障害者としての生活がスタートしたのです。



府中湖での練習風景

パラスポーツとの出会い

障害を負って最初に始めたのは水泳でした。義足生活になることで運動量を減らさないため、体調管理のために、一人でできて、一番手軽にできそうな水泳を始めたのです。始めたときから「どうせやるなら、大会にも出てみたいし、良い成績も残したい」と思っていたので、一生懸命泳いでいました。

水泳を始めて2年、2015年全国障害者スポーツ大会で、運良く50m自由形で1位、25m自由形で2位になることができました。その後も水泳は続けていましたが、妻が高校時代カヌー部に所属していて、全国大会で入賞したこともあると話してくれたことをあるときふと思い出し、「カヌーに乗ってみたい」と思いました。

初めて乗ったカヌーは、誰でも乗れるレジャー用カヌーでしたが、すぐそばの池で、中学生、高校生が、速そうなスプリントカヌーに乗っているのを見て「あれに乗りたいたい!」と思ったのが、パラカヌーへの挑戦の始まりでした。



ヴァー種目の練習

カヌーとの格闘

カヌーを始めはしたもの、簡単には乗れませんでした。左足がないため、身体の左右で6キロの体重差があることも、練習を困難にさせた理由の一つでした。カヌー（カヤック）は、2017年10月に始めたのですが、真冬の冷たい水に落ちては乗り、落ちては乗りしながら練習を続けました。「本当に乗れるようになるんだろうか…」と途方に暮れそうになる気持ちをすぐさま打ち消し「必ず乗れるようになる!」と言い聞かせながら…。結局、毎週日曜日だけの練習ということもあり、バランスをとって座っていられるようになるまでに5ヶ月くらいかかりました。

カヤックとは別に、ヴァーという種目もあるのですが、そのヴァーに初めて乗ったのは2019年1月でした。カヤックと違って安定性はあるのですが、艇を真っ直ぐ進ませるのが難しい乗り物で、こちらも悪戦苦闘しました。また、当時、ヴァーは香川県になかったので、2週間毎に土日になると、はるばる石川県まで遠征して練習しました。そんな風にして練習を積んだ私は、2019年3月にデビュー戦に出場し、カヤック3位、ヴァー2位という成績をおさめました。

※ヴァー種目：東京2020大会の新種目。艇の横に安定感を補うアウトリガー（浮き具）がついているカヌーを使用。片側だけにブレードがついているパドルを使って左右どちらかをこぎ進む。

今後の目標

日本代表選手として中身の濃いトレーニングを重ねる中で、少しはパラアスリートらしくなってきたかなという感触はありつつも、試行錯誤の連続で、トレーニングを積み重ねるほど未熟な部分を痛感する毎日ですが、目の目標である「東京パラリンピック出場権を獲得すること」に、残された時間、全力を注ぎます。そして、カヌーをより多くの人にとって身近なスポーツにできるような活動を行ない、「(パラ)カヌーといえば香川」という環境を作っていきたいという夢も叶えたいと思います。

自分の望む人生にするために

「幸せになりたかったら、“幸せになれるような種”をまこう」これは、私が小中学校などの講演会でお話させてもらっていることばです。「りんごを作りたいのに、ぶどうの種をまいてないかな?」と考えながら日々の言葉や行動を見つめることは、何をするときにも大切なことだと思います。

がんになり、身体に障害を負うことにならなければ歩むことのなかった、このパラアスリートという道を力尽きるまで全力で歩んでいきます。みなさんがそれぞれの「幸せの種」をまき、この世の中がたくさんの、そして、いろいろな「幸せの花や果実」で溢れることを願いながら、私もまた「幸せの種」をまき続けていきたいと思っています。



県内小学校での講演会